

**題名：感想文**

**氏名：尹海圓**

**所属：東京大学大学院総合文化研究科**

**専攻：国際社会科学専攻博士課程一年（2016年3月現在）**

まず、簡単に自己紹介をしますと、私は総合文化研究科国際社会科学専攻の博士課程に在籍しております。専攻は政治学であり、日本と韓国の比較政治経済学の分野を勉強しております。

本ワークショップの目的は、韓国と関連する研究を行う人々を対象として、一次資料へのアクセスや資料の請求方法、入手した一次資料の活用方法に関する情報を提供することだと理解しております。現在博論の研究計画を具体化させている段階にあり、これと関連して一次資料の活用が必要となる時期となっていたので、本プログラムに参加させていただくことになりました。

資料調査と関連して、本ワークショップから得られた成果としては二つ挙げられます。第一に、一次資料というものをより多面的に理解する機会を得たことです。本プログラムを通じて、多様な形態の一次資料やこれらを所蔵している機関に関する情報、また、一次資料が研究に占める意義や重みについて真剣に考える機会をいただき、一次資料を多面的に理解する上で貴重な経験になりました。資料に関する情報を単に知っていることと、実際に所蔵機関に訪問して資料にアクセスしてみることに、対象への理解という観点から相当な差があったと感じます。

第二に、一次資料へのアクセスや活用に対する心理的な障壁が低くなったことです。これまではまだ博論の分析対象や時期が具体化されていなかったこともあって、主に二次資料を扱っており、一次資料を十分に活用してきたとは言いがたいものがありました。そのため、すぐ手に入る文献やインターネットで得られる資料に比べ、特定の場所に行かなければアクセスできない資料に関しては、心理的な距離感があったと思います。今回のワークショップを通じて、一次資料にアクセスするということがいかなるものなのかをより現実味のある形で体験し、その分資料調査に対する心理的距離感が縮まったと感じます。

今回のワークショップの間、韓国学研究部門の方々に大変お世話になりました。木宮先生、長澤先生、小池さんを含め、ワークショップを企画してくださった方々のおかげで、非常に有益な時間を過ごすことができました。本プログラムを通じて、資料調査に関する知識や問題意識が一段と高まったと思います。改めて感謝申し上げます。